



国際標準論理文章能力検定

International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 10

2013年度 第2回

問題用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。

まず、下記の注意をよく読んでください。

●検定上の注意●

1. 検定時間は90分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

問題Ⅰ

第一問

後の問題文には(1)～(5)のような論理的に誤った箇所があります。それぞれ(1)～(5)に該当する誤った箇所の行数を答え、間違いを抜き出し、また、それを正しい形に直しなさい。

- (1) 主語と述語の関係がおかしい。
- (2) 言葉のつながりがまちがっている。
- (3) 助詞・助動詞の間違い。
- (4) 接続語が間違っている。
- (5) 読点の打ち方が間違っている。

第二問

問題文を四つの段落に分け、第二、三、四段落の最初の七字（句読点を含む）を抜き出しなさい。

【問題文】

「かちかち山」は、江戸時代に成立したと言われ、五大おとぎ話の一つとも言われている。太宰治ただいおさむの「御伽草子」おとぎぞうしの下地にもなっている「かちかち山」は、こんなあらすじである。おじいさんが畑で働いていると、タヌキが何度も邪魔をする。おじいさんはタヌキを捕まえて家に帰り、おばあさんに「タヌキ汁にして」と言って縛ってつるしておく。しかしタヌキは

- 5 うまく言っておばあさんに縄を解かせ、その上おばあさんを殺して婆汁はばあじゆにしてしまう。そしておばあさんに化けておじいさんを待ち、何も知らないおじいさんを、「タヌキ汁ですよ」と言ってお婆汁はばあじゆを食べさせてしまう。その後正体を現し、「おじいさんがおばあさんを食べた」とからかいながら山に逃げ帰る。おじいさんが悲しんでいると、ウサギが現れ、代わりに仇討ちあだうをする事になる。ウサギは、タヌキをたきぎ拾いに連れ出し、タヌキの背負ったたきぎに火をつけ、やけどを負う。次に、菓だと偽って、唐辛子を入れたみそをタヌキのやけどに塗って痛がらせる。最後に、「船遊びをしよう」と誘い、ウサギは木の船に、タヌキは泥の船に乗る。泥の船は壊れて沈み、タヌキはおぼれて死ぬ。ところが最近、娘に読ん
- 10 でやった絵本の「かちかち山」は、タヌキが捕まり、おばあさんにうまく言ってお婆汁はばあじゆを解かるところまでは同じなのだが、その後が違っていた。タヌキはおばあさんをなぐって、山に逃げ帰る。おじいさんはけがをしたおばあさんを介抱する。それを見たウサギがタヌキとたきぎ拾いに行き、タヌキの背負ったたきぎに火をつけ、やけどを負わせる。それで仇討ちあだうが終わり、お話も終わる。タヌキはおばあさんを殺したり、婆汁はばあじゆを作ったりはしない。やけどはするが、おぼれ死んだり
- 15 はしない。菓と偽った泥の船も唐辛子入りみそも出てこないのである。元の「かちかち山」は、おじいさんがおばあさんを食べたり、タヌキがさんざんな目にあったりと、なかなか残酷である。これでは子供に読んでもやれないと、絵本を作るときにむごい場面を省いて書きかえられたのだろう。それもハッピーエンドにしたい、子供に夢を与えたいという願いを込めた書きかえかもしれない。そして、元の話を知っているからか、書きかえられたストーリーではちよつと物足りない。偽の菓も泥の船も、残酷ではあるがユーモラスで捨てがたい。古くから語り継がれてきた、昔話をこんなに変えてしまってもいいのだろうか。今の時代、昔話やおとぎ話のストーリーはどうあるべきなのだろうか。昔話の筋や結末を変えてしま
- 20 まうことについて、考えてみたいものである。

問題Ⅱ 次の文章は永井荷風「鐘の音」です。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

住みふるした麻布あざぶの家の二階には、どうかすると、鐘の声の聞えてくることがある。

鐘の声は遠過ぎもせず、また近すぎもしない。何か物を考えている時でもそのために妨げ乱されるようなことはない。そのまま考に沈みながら、静に聴いていられる音色である。また何事をも考えず、つかれてぼんやりしている時には、それがために（1）ぼんやり、夢でも見ているような心持になる。西洋の詩にいう歌のような、心持のいい柔な響である。

わたくしは響のわたって来る方向から推測して芝山内の鐘だときめている。

むかし芝の鐘は切通しにあったそうであるが、今はその処には見えない。今の鐘は増上寺の境内の、どの辺から撞き出されるのか。わたくしはこれを知らない。

わたくしは今の家にはもう二十年近く住んでいる。始めて引越して来たころには、近処きんじよの崖下がけしたには、茅葺屋根かやぶきやの家が残っていて、昼中にもわとりが鳴いていたほどであったから、鐘の音も今日よりは、（2）度々聞えていたはずである。しかしいくら思い返して見ても、その時分鐘の音に耳をすませて、物思いに耽ふけったような記憶がない。十年前には鐘の音に耳を澄ますほど、老込んでしまわなかった故でもあろう。

しかるに震災の後、いつからともなく鐘の音は、むかし覚えたことのない響を伝えて来るようになった。昨日聞いた時のように、今日もまた聞きたいものと、それとなく心待ちに待ちかまえるような事さえあるようになって来たのである。

鐘は昼夜を問わず、時の来るごとに撞きだされるのは言うまでもない。しかし車の響、風の音、人の声、ラヂオ、飛行機、蓄音器、さまざまの物音に遮られて、（3）わたくしの耳には達しない。

わたくしの家は崖の上に立っている。裏窓から西北の方に山王と氷川の森が見えるので、冬の中西北の富士おろしが吹きつづく、崖の竹藪や庭の樹が物すごく騒ぎ立てる。窓の戸のみならず家屋を揺り動かすこともある。季節と共に風に向も変つて、春から夏になると鄰近処の家の戸や窓があげ放されるので、東南から吹いて来る風につれ、四方に湧起るラヂオの響は、朝早くから夜も初更に至る頃まで、わたくしの家を包围する。これがために鐘の声は一時全く忘れられてしまったようになるが、する中に、また突然何かの拍子にわたくしを驚すのである。

この年月の経験で、鐘の音が最もわたくしを喜ばすのは、二、三日荒れに荒れた木枯しが、短い冬の日のあわただしく暮れると共に、ぱったり吹きやんで、寒い夜が一層寒く、一層静になったように思われる時、つけたばかりの燈火の下に、独り夕餉の箸を取上げる途端、コーンとはつきり最初の一撞きが耳元にきこえてくる時である。驚いて箸を持ったまま、思わず音のする彼方を見返ると、底びかりのする神秘的な夜の空に、宵の明星のかがが、たった一ツさびし気に浮いているのが見える。枯れた樹の梢に三日月のかかっているのを見ることもある。

（4）日の長くなることが、やや際立って知られる暮れがた。昼は既に尽きながら、まだ夜にはなりきららない頃、読むことにも書くことにも倦み果てて、これから燈火のつく夜になっても、何をしようという目当も楽しみもないというような時、（5）耳にする鐘の音は、机に頬杖をつく肱のしびれにさえ心付かぬほど、埒もないむかしの思い出に人をいざなうことがある。死んだ友達の遺著など、あわてて取出し、夜のふけわたるまで読み耽けるのも、こんな時である。

若葉の茂りに庭のみならず、家の窓もまた薄暗く、殊に糠雨※2の雫しずくが葉末から音もなく滴る昼過ぎ。いつもより一層遠く柔に聞えて来る鐘の声は、鈴木春信の古き版画の色と線とから感じられるような、疲労と倦怠けんたいを思わせるが、これに反して秋も末近く、一宵ひとよごとにその力を増すような西風に、とぎれて聞える鐘の声は屈原くつげんが『楚辞そじ』にもたとえたい。

昭和七年の夏よりこの方、世のありさまの変わるにつれて、鐘の声もまたわたくしには明治の世にはおぼえた事のない響を伝えるようになった。それは忍辱にんにくと諦悟の道を説く静なささやかである。

西行も、芭蕉も、ピエール・ロチも、ラフカヂオ・ハアンも、各その生涯の或時代において、この響、この声、この囁ささやきに、深く心を澄まし耳を傾けた。しかし歴史はいまだかつて、如何なる人の伝記についても、殷々いんいんたる鐘の音が奮闘勇躍の氣勢を揚げさせたことを説いていない。時勢の変転して行く不可解の力は、天変地妖てんべんちようの力にも優っている。仏教の形式と、仏僧の生活とは既に変じて、芭蕉やハアン等が仏寺の鐘を聴いた時の如くではない。僧が夜半に起きて鐘をつく習慣さえ、いつまで昔のままにつづくものであろう。

たまたま鐘の声を耳にする時、わたくしは何の理由もなく、むかしの人々と同じような心持で、鐘の声を聴く最後の一人ではないかというような心細い気がしてならない……。

昭和十一年三月

※1 初更：現在の午後七時または八時から二時間をいう。

※2 糠雨：霧のような細かい雨。

※3 殷々：大きな音が鳴り響くさま。

第一問 —— 線部とはどんな響きなのか、該当する一文の初めの五字（句読点含む）を抜き出しなさい。

第二問 鐘の音は作者に春、夏、秋、冬、それぞれどのような音色で響いたのか。次のア～カから選びなさい。

ア 追憶 イ 勇壮 ウ 清澄 エ 悲壮 オ 倦怠 カ 苦悩

第三問 (1)～(5)に入る言葉を、次のア～オから選んで、記号で答えなさい。

ア ふと イ もっと ウ なおさら エ めったに オ やがて

第四問 問題文の説明として適切なものを、ア～カから二つ選びなさい。

- ア 季節の変化や時間の経過を巧みに織り込み、鐘の音がどのように聞こえるかを見事に描写している。
- イ 様々な偉人、文人の文章を引用することによって、自分の心情を深めている。
- ウ 技巧的な文章で、特に隠喩表現の使い方が巧みである。
- エ 視覚的な文章で、作者の目に映る風景をまるで西洋画のように描写し、それを通して作者の心情を表現している。
- オ 叙情的な文章ではあるが、その中で、昔と今を対比させるなど、論理的な構成を持っている。
- カ 色彩感覚が優れた文章ではあり、風景描写を通して、作者の揺れ動く心情が巧みに表現されている。

問題Ⅲ 次の問いに答えなさい。

第一問 次の言葉を並べ替えて一文を作るときに、不要な言葉があります。それぞれ二つずつ答えなさい。

- (1) 不合理の 現実 合理の 合理性とは 超えた 網を 虚構 上に である かぶせた
- (2) あなたは 産物で という 近代の 問いかけは 前近代の 自分は ある 何者か

第二問 次の文章の要点を五十字以内でまとめなさい。

問題にしない時にはわかり切ったことと思われているものが、さて問題にしてみると実にわからなくなる。そういうものが我々の身边には無数に存している。「顔面」もその一つである。顔面が何であるかを知らない人は目明きには一人もいないはずであるが、しかも顔面ほど不思議なものはないのである。

和辻哲郎「古寺巡礼」

第三問 次の文章の要点を七十五字以内でまとめなさい。

※ ぎがくめん

伎楽面が顔面における「人」を積極的に強調し純粹化しているとすれば、能面はそれを消極的に徹底せしめたと言えるであろう。伎楽面がいかに神話的空想的な顔面を作っても、そこに現わされているものはいつも「人」である。たゞ口が喙になっけていても、我々はそこに人らしい表情を強く感ずる。しかるに能面の鬼は顔面から一切の人らしさを消し去ったものである。これもまた凄さを具象化したものとは言えるであろうが、しかし人の凄さの表情を類型化したものとは言えない。総じてそれは人の顔の類型ではない。能面のこの特徴は男女を現わす通例の面においても見られる。それは男であるか女であるか、あるいは老年であるか若年であるか、とにかく人の顔を現わしてはいる。しかし喜びとか怒りとかというごとき表情はそこには全然現わされていない。人の顔面において通例に見られる筋肉の生動がここでは注意深く洗い去られているのである。だからその肉づけの感じは急死した人の顔面にきわめてよく似ている。特に尉じょうや姥うばの面は強く死相を思わせるものである。このように徹底的に人らしい表情を抜き去った面は、おそらく能面以外にどこにも存しないであろう。能面の与える不思議な感じはこの否定性にもとづいているのである。

和辻哲郎「古寺巡礼」

※ 伎楽面：日本の伝統演劇のひとつ、伎楽で使われた仮面。正倉院に保管されている。

問題Ⅳ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 科学者の組み立てた科学的系統は畢竟※1するに人間の頭脳の中に築き上げ造り出した建築物製作品であって、現実その物でない事は哲学者をまたずとも明白な事である。また一方において芸術家の製作物はいかに空想的のものである意味において皆現実の表現であって天然の方則の記述でなければならぬ。

B ニュートンが一見捕捉しがたいような天体の運動も簡単な重力の方則によって整然たる系統の下に一括される事を知った時には、実際ヴォルテアの謳ったように、神の声と共に（1）は消え、闇の中に隠れた自然の奥底はその帷帳※2を開かれて、玲瓏たる天界が目前に現われたようなものであつたらう。フオークトはその結晶物理学の冒頭において結晶の整調の美を（2）にたとえているが、また最近にラウエやブラグの研究によって始めて明らかにした結晶分子構造のごときものに対しても、多くの人は一種の「美」に酔わされぬわけに行かぬ事と思う。この種の美感は、たとえば壮麗な建築や崇高※3な音楽から生ずるものと根本的にかなり異なつたところがあるように思われる。

C 世間には科学者に一種の美的享樂がある事を知らぬ人が多いようである。しかし科学者には科学者以外の味わう事のできぬような美的生活がある事は事実である。

D また一方において芸術家は、（3）に必要なと同程度、もしくはそれ以上の観察力や分析的の頭脳をもっていなければなるまいと思う。この事はあるいは多くの芸術家自身には自覚していない事かもしれないが、事実はそうで

なければなるまい。いかなる空想的夢幻的の製作でも、その基底は鋭利な観察によつて複雑な事象をその要素に分析する心の作用がなければなるまい。もしそうでなければ一木一草を描き、一事一物を記述するという事は不可能な事である。そしてその観察と分析とその結果の表現のしかたによつてその作品の芸術としての価値が定まるのではあるまいか。

E たとえば古来の数学者が建設した幾多の数理的の系統はその整合の美においておそらくあらゆる人間の製作物中の最も壮麗なものであろう。物理化学の諸般の方則はもちろん、生物現象中に発見される調和的普遍的の事実にも、単に理性の満足以外に吾人の※3（4）を刺激する事は少なくない。

F ある人は科学をもつて現実に即したものと考え、芸術の大部分は想像あるいは理想に關したものと考えるかもしれないが、この区別はあまり明白なものではない。広い意味における仮説なしには科学は成立し得ないと同様に、厳密な意味で現実を離れた想像は不可能であろう。

G 俗に絵そら事という言葉があるが、立派な科学の中にも厳密に詮索すれば絵そら事は数えきれぬほどある。科学の理論に用いられる方便仮説が現実と精密に一致しなくてもさしつかえがないならば、いわゆる絵そら事も少しも虚偽ではない。分子の集団から成る物体を連続体と考へてこれに微分方程式を応用するのが不思議でなければ、色の斑点を羅列して物象を表わす事も少しも不都合ではない。

寺田寅彦「科学者と芸術家」

※1 畢竟：最終的な結論としては。結局。

※2 帷帳：室内に垂れ下げて隔てとする布。とばり。

※3 吾人：一人称の代名詞。わたくし。

第一問 A ～ F の文章を正しい順番に並べ替え、記号で答えなさい。

第二問 (1) ～ (4) に入る言葉を A ～ オ から選び、記号で答えなさい。

ア 管弦楽 イ 美感 ウ 混沌 エ 芸術家 オ 科学者

第三問 本来、「似通った」とあるところを、「異なった」に変えた箇所があります。その箇所を含む文章をアルファベットで答えなさい。

第四問 問題文の主題を十字前後で答えなさい。

問題Ⅴ

論理的な文章とは、不特定多数の読者に向けて、自分の主張を筋道を立て、正確に伝える文章です。自分が思っていることを、すべての読者が同じように思っているとは限らないので、自分の主張に対しては論証責任が生じます。以上を頭に置いて、次のテーマに対して、あなたの意見を書きなさい。

《テーマ》

日本の教育は今曲がり角にきています。戦後は知識偏重のいわゆる詰め込み教育により、日本の教育水準とともに日本は経済的発展を遂げました。ところが、過度の受験競争により、詰め込み教育の弊害が露呈し、子どもたちの人間性が阻害されるという側面が看過できなくなりました。

そこで、詰め込み教育ではなく、「生きる力」をつける「ゆとり教育」が登場し、「総合学習」の時間を設けたり、週休二日制の実施、学習内容の削減と様々な改革を行ったのですが、今度は学力低下という問題が生じてきました。そして今、また週休二日制を見直したり、学習内容を増やしたりと、日本の教育は混迷が続いています。

問 次の三つの立場から一つを選び、あなたの意見を論証しなさい。ただし、後の条件を満たすこと。

- ① 学習内容を減らし、ゆとり教育を推進すべきである。
- ② 学力を高めるためには学習内容を増やすべきである。
- ③ 「ゆとり教育」でも、「詰め込み教育」でもない、新しい教育を提案する。

条件 1 あなたが選んだ立場を番号で明記すること。 条件 2 制限字数は句読点を含めて三百字以上、四百字以内。

条件 3 自分の主張・具体例・理由を明確に区別する。 条件 4 三つの段落に分ける。

条件 5 原稿用紙の表記上の規則に従う。(段落の書き始めは一字下げするなど。)